

四国のツキノワグマを守れ！ —50年後に100頭プロジェクト—

ひろげる助成

2年目

調査研究

シンポジウム参加者 216人

メディア露出 15回

今年度計画の達成度 85%

目標達成度 60%



高知で開催されたシンポジウムの様子

活動内容と成果

本活動では、①四国のツキノワグマの現状把握、②四国に暮らす人々の意識、③現状を打開するための方法、④普及啓発の四つの活動を行う。

①の活動では、新たなツキノワグマの生息場所を確認した。②の活動では、地元の関係団体に聞き取り調査を行い、利害関係者マトリックスを作成した。③の活動では、東京(2018年5月27日)でワークショップ(23人参加)、シンポジウム(98人参加)を開催した。④の活動では、高知(2019年1月26日)でシンポジウムを開催し、118人が参加者した。

課題

四国に生息するツキノワグマは数十頭以下と推定される。しかし、生息数の増加は認められず、住民の保全意識が十分に高くはない。

目標

- ①四国のツキノワグマの生息の現状が明らかになり、
- ②四国の人々のツキノワグマの保護への意識が向上する。



自動撮影カメラ等の設置の様子

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

さまざまな立場の方々にクマの保全の重要性を理解してもらえるようなシンポジウムとなるよう、構成に苦勞した。

■工夫した点

地元で林業に携わる方をシンポジウムに招き、異なる立場から保全の在り方について議論する場を設けることができた。

| 活動地域 |  四国

〒060-0818
北海道札幌市北18条西9丁目
北海道大学獣医学研究院
野生動物学教室内
電話：011-706-7188
E-mail：shimozuru@vetmed.hokudai.ac.jp
<http://www.japanbear.org/>



今後の
展望

ツキノワグマの生息状況の調査を継続しつつ、生息域外保全や域内保全を視野にいたれた保全策を検討する。地元関係団体との連携を強化し、クマを守ることがその地域に利益をもたらすような仕組みの構築を検討する。

